

三次市  
子どもの読書活動推進計画  
【第二次】

～読書活動を通して、ことばの教育の充実を～

読書大好き！  
わかるって楽しいね

本は友だち！  
いろいろな世界へ  
連れて行ってくれる



三次市教育委員会



# 目次

## 基本方針

ページ

1

### み

## 魅力を知る

### 本を読むきっかけの提供

2

- 1 乳幼児期からの本の読み聞かせ
- 2 推薦図書を紹介
- 3 イベントを通じた読書活動の普及・啓発
- 4 地域との連携

### 本を読むことの習慣化

5

- 5 学校における全校一斉読書活動の推進
- 6 三次市立図書館における読書活動の推進

### よ

## 読み深める

### 本を読む力の育成

7

- 7 学校における読む力を育てる指導の充実

### 本を読んで生き方を考える機会の充実

9

- 8 本を読んで自分の生き方を考え表現する機会の提供
- 9 読書活動推進リーダー（子ども司書等）の育成

### し

## しっかり支える

### 読書活動推進に向けた整備

11

- 10 学校図書館の読書センターとしての整備
- 11 学校図書館の学習・情報センターとしての整備
- 12 三次市立図書館における蔵書図書資料の整備・充実
- 13 司書教諭等，学校図書館担当者の研修の充実
- 14 司書の配置及び研修等の充実

## はじめに

子どもの読書活動は、子どもがことばを獲得し、感性を豊かに磨き、表現力を高め、創造力を広げていくものであり、人生をよりよく生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものです。

この子どもの読書活動のもつ重要性に鑑み、国においては、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されました。また、平成14年8月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が公表され、平成14年から18年までの5年間の施策の基本的方向と方策が示されました。

広島県では、平成15年度から全国に先駆けて「ことばの教育」に取り組む中で、平成15年11月に「広島県子どもの読書活動推進計画―ことばの力を育てる読書活動をめざして―」を策定、平成21年2月にはその第二次計画を策定し、本県の子どもの読書活動の成果や課題をもとに、平成26年6月には第三次計画を策定し、子どもの読書活動のさらなる推進を図っています。

三次市においても、子どもの読書活動の課題や実情等を踏まえ、平成22年3月「三次市子どもの読書活動推進計画」を策定し、「本と一緒に生活し、生活と一緒に本を読んでいこうとする子ども」の育成をめざし、5年間の取組を行いました。この取組によって、三次市立図書館における児童図書貸出冊数が約2倍に増加したことや、【P. 7】学校における推薦図書選定割合が向上したことなど【P. 3】、一定の成果が見られました。

その一方で、一か月に一冊も本を読まない児童生徒の割合（不読率）が減少しない課題があります。各校において読書活動年間指導計画は作成・整備されましたが、子どもたちがもっと本を読みたくなる工夫、様々な図書資料を活用した学習活動の展開等、学校での仕掛けづくりがさらに必要だと考えます。

また、社会が急激に変化し、複雑化していく中で自立的に生きていくためには、特に社会に出る前段階において、読書活動を通じて本から学び、自らの考えを深める力を養うことが非常に重要だと考えています。

こうしたことから、これまでの取組の成果や課題を踏まえ、今後おおむね5年間の施策の基本方針と具体的な取組を示した「三次市子どもの読書活動推進計画」(第二次)を策定しました。

市民の皆様の理解と協力のもと、家庭・地域・学校等が一体となった子どもの読書活動推進に取り組んでいくこととします。目標の達成に向けて積極的に取り組んで参りますので、皆様の更なる御支援と御協力をお願いいたします。

平成27年7月

三次市教育委員会教育長 松村 智由

# 三次「夢人」育て

ふるさと三次を愛し、誇りに思い、夢をもち学び続ける力と  
社会の一員として積極的に貢献する志をもった子ども

## ことばの教育の充実

聞  
く

話  
す

読  
む

書  
く

## 三次市子どもの読書活動推進計画（第二次）

み

魅力を知る

よ

読み深める

し

しっかり支える

### 本を読むきっかけの提供

1 乳幼児期からの本の読み聞かせ

2 推薦図書の紹介

3 イベントを通じた読書活動の普及・啓発

4 地域との連携

### 本を読むことの習慣化

5 学校における全校一斉読書活動の推進

6 三次市立図書館における読書活動の推進

### 本を読む力の育成

7 学校における読む力を育てる指導の充実



### 本を読んで生き方を考える機会の充実

8 本を読んで自分の生き方を考え表現する機会の提供

9 読書活動推進リーダー（子ども司書等）の育成

### 読書活動推進に向けた整備

10 学校図書館の読書センターとしての整備

11 学校図書館の学習・情報センターとしての整備

12 三次市立図書館における蔵書図書資料の整備・充実

13 司書教諭等、学校図書館担当者の研修の充実

14 三次市立図書館における司書の配置及び研修等の充実



学校・家庭・地域が一体となった子どもの読書活動推進体制の充実

# 1 乳幼児期からの本の読み聞かせ

子どもは、大人から民話などの話を聞いたり、読書する大人の姿などに影響されたりして、読書への意欲を高めていくものです。そのため、家庭・地域において、乳幼児期から本に親しむ機会を提供し、本を読むことを習慣づけることが大切です。

## 目標 ①

保護者が読み聞かせについて学べる参加・体験型プログラムの内容の充実をめざします。

### 現状

### 参加・体験型プログラムの充実



読みかたりに興味のある方を対象に、入門講座を行います。今回は、乳幼児を対象とした読みかたりの大切さについて、絵本の紹介やお話し会の実践も交えながら学習する初心者向けの内容です。どなたでも気軽に参加していただける講座です。本の読みかたりに興味のある方は、ぜひご参加ください。

日時 平成27年2月25日(水) 午後1時30分～午後3時

場所 三次市立図書館内 多目的室

講師 三次おはなしボランティアネットワーク会員

「絵プロ」ファシリテーター、三次市立図書館職員

定員 15人

参加費 無料

申込み 三次市立図書館カウンター・電話

電話 0824-62-2639 (三次市立図書館)



三次市立図書館（中央館）では、本の読みかたりに興味のある市民を対象に、平成25年度から年に1回、「読みかたり入門講座」を開催しています。三次おはなしボランティアネットワーク会員が中心となり講師を務め、乳幼児を対象とした本の読みかたりの大切さについて、絵本の紹介やお話し会の実践を交えながら学習する参加・体験型のプログラムです。

毎年、多くの希望者が講座を受講

## 目標 ②

三次市立図書館【\*1】では、より利用しやすい乳幼児向け図書コーナーをめざします。

### 現状

広島県立図書館の「赤ちゃん向け絵本」のコーナーには、乳幼児向けの図書が約500冊（平成25年度末）設置されています。

三次市立図書館には、323冊（平成26年度末）の乳幼児向けの絵本が置かれています。

スキんシップをとりながら、楽しく読みましょう！



三次市立図書館の「あかちゃんえほん」のコーナー

### 方策

- 乳幼児をもつ保護者を対象とした子育て支援活動等を通じて、保護者等に読書や読み聞かせの意義・大切さの普及が図られるよう、三次おはなしボランティアネットワーク等との連携・協力の推進に努めます。
- 三次市立図書館において、読書の意義についての理解を図る研修会の開催やおはなし会等の継続的開催、乳幼児向けの本の展示などにより、乳幼児が本に親しむことができる機会の提供に努めます。また、より利用しやすい乳幼児向け図書コーナーをめざします。
- 幼稚園・保育所等において、乳幼児が本に親しむ機会を確保できるように努めます。

## 2 推薦図書を紹介

子どもたちに推薦図書を紹介することは、魅力的で楽しい本と出会うきっかけとなる大切な取組です。

また、学校ごとに推薦図書や必読書を選定し、児童生徒に示すことは、発達段階にあった図書を提供するために重要な取組です。

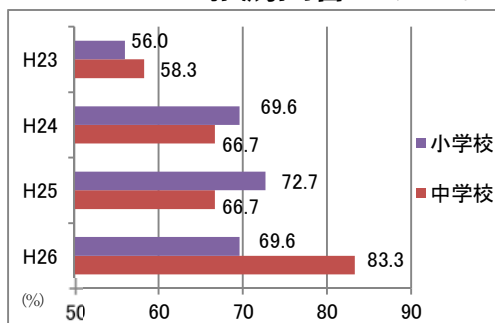
読書活動の推進には、図書館や学校で作成されたこれらの推薦図書や必読書の選定リストを活用し、子どもたちと本との出会いの機会をますます広げることが必要です。

### 目標 ①

小・中学校における推薦図書や必読書リストの作成率を100%にします。

### 現状

#### 推薦図書のリストを作成している学校の割合



楽しみと決意のある  
作品!

卒業までにはぜひ!

『13ヶ月の13歳』 白と黒の月の夜 アレックス・シム 多摩堂	とにかく読み出したら一気に読みたくて仕方ない。不思議な体験をする少女の物語。	推薦図書 ☆☆☆☆☆
『チョコレイト・フンター』 グワウグワウ アレックス・シム 多摩堂	音楽とは何かを考えさせる、今の社会の風潮もこめられた作品。	推薦図書 ☆☆☆☆☆
『人魚失格』 本宮 角川文庫	『花れメロス』の作者の自由な作風。主人公の個性を共感できるか。映画化もされました。	推薦図書 ☆☆☆☆☆
『347目の嘘』 グレンタイン・デヴィス あずなろ書房	サンタクロースって本当にいるの? 必読まる感動のストーリー。	推薦図書 ☆☆☆☆☆
『博士の讀んだ本』 たけなほ 新泉社	数学嫌いの入でもこれを読めば、好きになるかも。石塚博幸を持つ博士の物語。映画化もされました。	推薦図書 ☆☆☆☆☆

布野中学校で作成されている推薦読書のリスト

各学校における推薦図書のリストを作成し、児童生徒に読書を進めている小・中学校は、次第に増えてきています。特に、中学校においては意識的に推薦図書のリストを作成し、生徒に読書を促す取組が進んでいます。

### 目標 ②

三次市立図書館における推薦図書の紹介100%を継続します。

### 現状

#### 三次市立図書館における推薦図書等の紹介状況

〇三次市立図書館員のオススメ本リスト (子ども版)

- ・図書館ペアしおりちゃんのおすすめ本
- ・図書館ペアぶっくんのおすすめ本
- ・それぞれの季節に合った絵本リスト
- ・おおきなえほん など (平成25年度末)

推薦図書紹介のサービスは、大変充実しています。おすすめの本のリストについては、利用状況を把握しながら随時作成し、更新を続けています。

### 方策

- 学校では、校内での必読書・推薦図書を選定し、それらの図書を読むことを読書活動の年間指導計画に組み入れ、計画的に読書活動を推進します。
- 学校は、校内に必読書・推薦図書の選定リストを活用した図書コーナーを設置したり、親子読書等により家庭における読書活動を推奨したりします。
- 引き続き、三次市立図書館や三次おはなしボランティアネットワークなどが作成したブックリストを活用し、図書館利用者等広く市民に提供します。
- 三次市立図書館において、推薦図書の展示や新刊情報の提供を行い、本についての情報を広く市民に発信します。



### 3 イベントを通じた読書活動の普及・啓発

学校・家庭・地域において、読書活動を推進する気運を高めるためには、例えば「子ども読書の日」（4月23日）【\*2】や「古典の日」（11月1日）【\*3】などに学校や地域、三次市立図書館等で行われるさまざまなイベントを通じて、読書活動の意義や重要性についての普及・啓発に、継続して取り組むことが大切です。

#### 目標 ①

「子ども読書の日」、「古典の日」における活動の取組を小・中学校では継続して実施し、各学校の特色を生かした内容の充実をめざします。

#### 「子ども読書の日」「古典の日」の取組の紹介

「子ども読書の日」（4月23日）、「古典の日」（11月1日）における取組は、すべての小・中学校において実施されています。



#### 現 状

三和小学校では、「子ども読書の日」に『お話レストラン』と題し、朝会の時間を使って、教員による本の読み語りを行いました。

7つの教室にテーマを設定し、児童は、自分が興味のある部屋(レストラン)に行き、本の読み語りを楽しみました。

八幡小学校では、地域にある辻八幡神社の「神殿入り」を題材にした紙芝居づくりに取り組むため、「子ども読書の日」に紙芝居グループの方に来ていただき、紙芝居の読み語りをしてもらいました。児童は、手作り紙芝居のすばらしさに引き込まれました。



「古典の日」にちなんで、昔話など古典にかかわりのある本を展示したり読み聞かせたりしている学校もあります。

#### 方 策

- 「子ども読書の日」（4月23日）、「古典の日」（11月1日）の取組を各小・中学校の特色を生かした内容で充実させます。
- 三次市立図書館において、研修会、講座等の継続的開催や子どもの読書に関する資料展示を行うことで、読書活動啓発の機会の確保に努めるように促します。

## 4 地域との連携

家庭や地域においても子どもが本と出会うきっかけを増やすために、三次市立図書館においては、司書等の専門的職員による読書活動の推進に向けた様々な取組が行われています。

また、ボランティアによる読み聞かせやお話会などの取組も、子どもが本と出会うきっかけづくりに大きな役割を果たしています。

### 目標 ①

広島県が企画するボランティアのスキルアップ・交流の場へ、三次市からの参加を継続します。

### 三次おはなしボランティアネットワーク活動事業報告(平成26年度)

実施日	活動名・事業名	備考
4月12日	平成25年度会計監査	6名
4月12日	第1回運営委員会	3名
5月14日	総会	参加者16名
	ブックトーク研修会	参加者16名
6月11日	第2回運営委員会	6名
7月16日	第3回運営委員会	7名
7月25日	生活訓練事業おはなし会	協力5名
8月8日	生活訓練事業おはなし会	協力5名
9月13日	第4回運営委員会	4名
10月19日	ぶち・だじゃれグランプリ in ふれあい巴祭り	参加者20名
11月12日	第5回運営委員会	6名
11月23日	第6回運営委員会	6名
11月24日	交流会	12名
	おはなしワンダーランド2014	参加者28名
	平田 昌広&平田 景 in みよし	参加者50名
1月14日	子読ネット研修会	6名
2月14日	ほんごうこども図書館おはなしのポケット	2名
2月14日	三次市立図書館サンドアートで絵本の世界	協力5名
2月25日	三次市立図書館「読みかたり入門講座」	協力2名
3月6日	第7回運営委員会	5名
3月14日	県立図書館子ども向け新刊図書紹介	2名
3月22日	第14回図書館へ行こう	60名

### 現状

- 三次おはなしボランティアネットワークは、毎年、広島県主催の研修会に参加しています。
- 読書活動ボランティアは、読み聞かせの実演を行う、乳幼児向けのおはなし会を開くなど、親子で本に触れる体験の大切さを保護者に伝えています。
- 学校においては、朝の読書の時間・昼休憩における読み聞かせや図書室の整備など、子どもの読書活動推進のための多様な活動を行っています。

三次おはなしボランティアネットワークでは、ボランティア交流事業として、毎年絵本作家等を招いて絵本ライブやワークショップを開催しています。写真は、平成26年度に開催した『おはなしワンダーランド2014 平田昌広&平田景 in みよし』の様子です。



### 方策

- 広島県が主催するボランティアのスキルアップ・交流の場へ積極的に参加します。
- 読書活動ボランティアが活躍できる場が増えるように、三次市立図書館や各学校等との連携を充実させます。
- 読書活動ボランティア同士が交流し、情報を共有化できる場を設けます。



## 5 学校における全校一斉読書活動の推進

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、学校や家庭、地域は大きな役割を担っています。小学校、中学校においては、児童生徒が生涯にわたる読書習慣を身に付けるとともに、自らの読書の幅を拡げるため、様々な本に触れる機会を確保することが重要です。

### 目標 ①

全校一斉読書活動を全ての小・中学校で実施し、週2回以上実施する学校の割合を100%にします。

### 現状

#### 全校一斉読書活動の実施状況

全校一斉読書活動は、全ての小・中学校で実施されています。  
しかし、各学校での実施回数や状況を見ると、「毎日あるいは週に複数回」実施している学校ばかりではなく、不定期に実施している学校もあります。読書の習慣化につながるよう、読書活動の意義を再度周知し、時間の確保とともに全校一斉読書活動を充実させる必要があります。



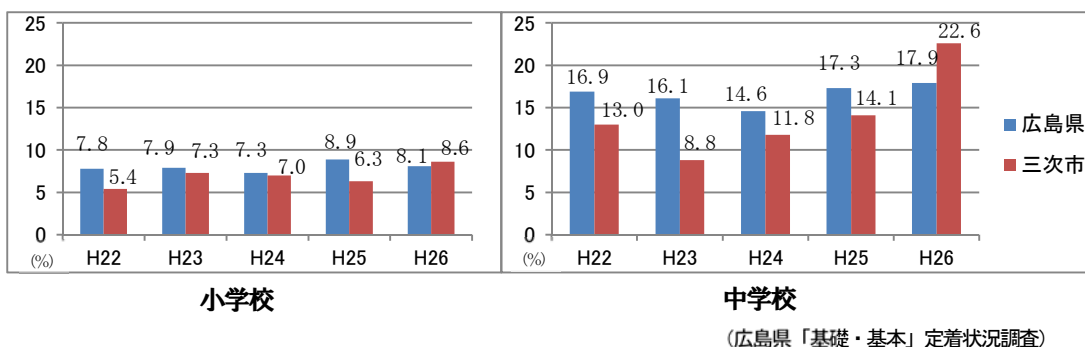
君田小・中学校で行われている小中合同読書集会

### 目標 ②

1か月に1冊以上本を読む児童生徒の割合を小学校は95%以上、中学校は85%以上にします。

### 現状

#### 1か月に1冊の本を読まない児童生徒の割合



小・中学校ともに不読率の低下には大きな成果が見られません。特に、中学校においては、22.6%の生徒が1か月に1冊の本を読まない実態があります。

全校一斉読書活動については、小・中学校ともに教育活動の中に位置付けることができていますが、読書の習慣化までには至っていません。今後は、各学校での読書活動のあり方を見直し、読書活動推進にさらなる工夫や充実が必要です。



### 方策

- 児童生徒の発達段階や実情に即して、「朝読書」活動等を一層充実させます。読書マラソンや読書の足跡など、年間の読書ページ数を記録したり、1か月の目標読書冊数を児童生徒が自ら決めてどれだけ読むことができたのかを振り返ったりする取組を充実させます。
- 日常的な読書活動につながるように、発達段階に応じた読み聞かせ、紙芝居、ブックトーク等の実施、学級通信や学校図書館だよりによる読書活動の推奨、ころぶっくる号（移動図書館車）等の利用により、とりわけ中学生への読書活動を充実させます。

## 6 三次市立図書館における読書活動の推進

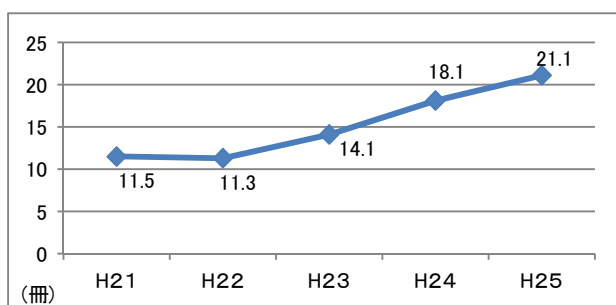
子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの「意識・能力」が高いことが分かっています。しかし、子どもの読書活動を見ると、中・高校生になるにつれ、読書離れは進んでいます。中・高校生の世代に読書活動を促す取組を更に進めることが重要です。

家庭で一緒に本を読み、読んだことをもとに話すなど、子どもたちが楽しみながら本に親しむきっかけをつくるために、図書館は、児童サービスや青少年サービス【\*4】の一層の充実を図り、ボランティア等と連携・協力しながら、子どもと本を結び付ける場所としての役割を果たすことが求められています。

**目標 ①** 三次市立図書館における子ども一人当たりの児童図書貸出冊数を20冊以上継続します。

現 状

### 三次市立図書館の子ども一人当たり児童図書貸出数



(子ども：20歳未満)



三次市立図書館(中央館)での本の貸出の様子

図書館における子ども一人あたりの児童図書貸出冊数が12冊以上になることをめざして取組をスタートした平成21年度は、一人当たり11.5冊の貸出冊数でしたが、様々な取組を充実させることで、平成25年度には21.1冊となり、目標を達成することができています。

子どもと一緒に図書館へ  
出かけてみましょう!



**目標 ②** 三次市立図書館における青少年サービスを100%にします。

現 状

### 青少年サービスの整備状況

三 次	君 田	布 野	作 木	吉 舎	三良坂	三 和	甲 奴
○	○		○	○		○	

三次市内8図書館のうち5図書館での青少年コーナーが設置されています。全館での中・高生を対象としたコーナーの設置と内容の充実が求められています。

方 策

- 学校や子どもの読書活動ボランティアなどと連携・協力して、子どもの読書活動推進の中核施設として、各地域の市立図書館の青少年サービスを充実させます。
- 子どもが本と出会う機会を充実させるため、地域における読書活動ボランティアの育成を働きかけます。
- 三次市立図書館では、子どもの読書活動に関する情報の収集を積極的に行い、ホームページ等に掲載するなど幅広く発信します。

## 7 学校における読む力を育てる指導の充実

社会が急激に変化し、複雑化していく中で自立的に生きていくためには、特に社会に出る前段階において、目的や意図に応じた読書活動を通じて本から学び、自らの考えを深める指導を行うことは非常に重要です。

子どもが本を読む目的は様々です。楽しむために読む、調べ学習のために読む、自分の考えを広めたり深めたりするために読む等、目的に応じて読む本や読み方が変わってきます。例えば、タイトルや目次、作者名等から目的に合った本を選んだり、目的に応じて複数の本や資料を関連付けて読んだりすることが必要です。

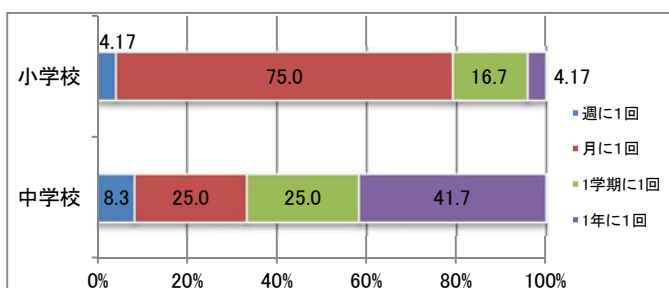
このことから、学校教育においては、全ての教科等の学習活動において、図書資料の積極的な活用や意図的・計画的な読書活動の推進が重要です。

### 目標①

目的に応じて本を読む児童生徒を育成するために、各教科等の学習において、学校図書館を学期に1回以上活用する小・中学校を100%にします。

### 現状

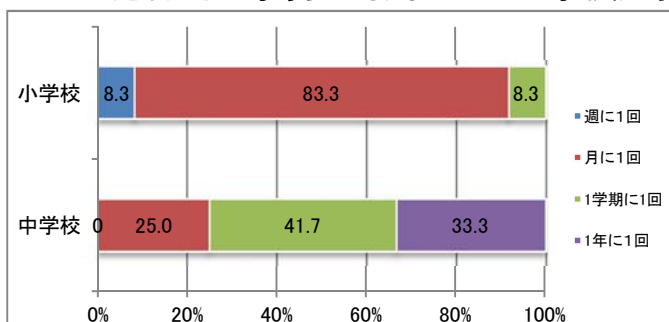
#### 国語科の学習において学校図書館を活用している割合



全ての学校が、国語科の学習において、学校図書館を活用しています。

活用状況を見ると、小学校では週1回～月1回の割合が多く、並行読書等、教科の内容と読書の内容とを関連させた取組が進んでいます。

#### 総合的な学習の時間において学校図書館を活用している割合



総合的な学習の時間の学習において、全ての学校で学校図書館の活用がなされています。

国語科と同様に、小学校では望ましい活用が見られますが、中学校では年に1回という活用も33.3%あり、今後、積極的な活用が求められます。

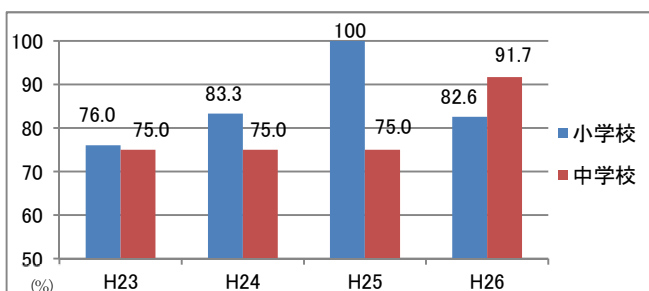
(平成26年度学校図書館の現状に関する調査)

### 目標②

「様々な本や資料を基に自分の考えをもたせる指導をしている学校」の割合を小・中学校は100%にします。

### 現状

#### 様々な本や資料(図・表・グラフを含む)を基に自分の考えをもたせる指導をしている学校の割合



各種学力調査の結果からも、様々な文章や資料等を読み、そこから自分の考えをもつことは、児童生徒の課題となっています。

各教科等の指導において、さらに、意図的・計画的な図書資料の活用をした指導が望まれます。

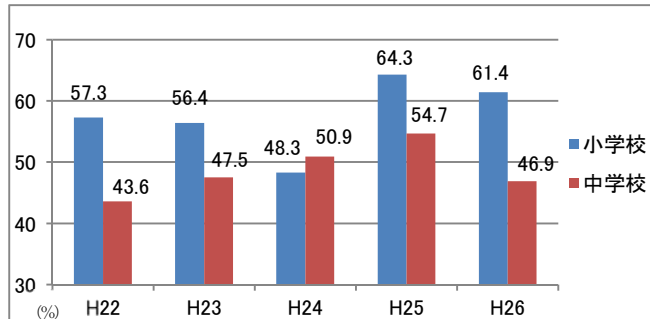
(広島県「基礎・基本」定着状況調査)

### 目標③

「家で本や資料などを利用して学習している児童生徒」の割合を小学校は65%以上、中学校は55%以上にします。

### 現状

#### 家で本や資料などを利用して学習している児童生徒の割合



(広島県「基礎・基本」定着状況調査)

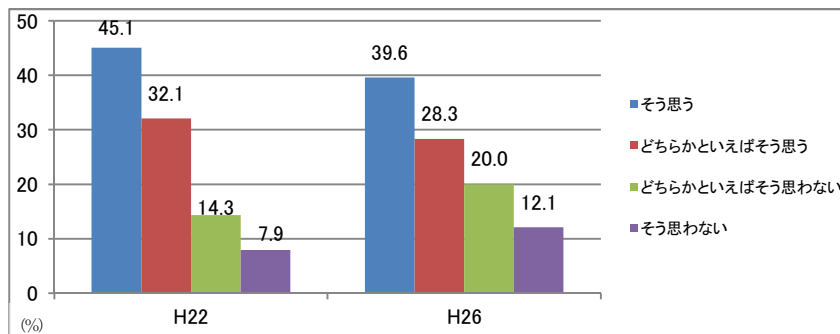
「家で本や資料などを利用して学習している児童生徒」の割合は、小学校で60%前後、中学校では50%前後で推移しています。家庭学習の内容を授業内容と関連させるなど、意図的・計画的な図書資料の活用を取り入れた家庭学習の工夫が必要となります。

### 目標④

400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのを難しいと思わない児童生徒の割合を10%アップします。

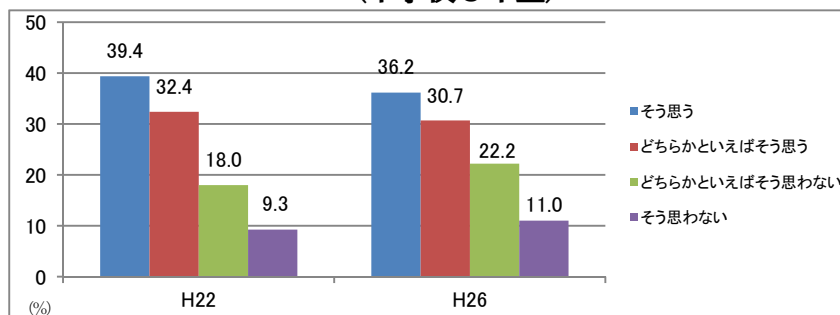
### 現状

#### 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのを難しいと思わない児童生徒の割合 (小学校6年生)



児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むために、各教科等において、記録・要約・説明・論述といった学習活動が求められています。

#### (中学校3年生)



(全国学力・学習状況調査)

書くことへの抵抗感をもつ児童生徒の割合は、減少傾向にあります。



### 方策

- 学校は、「ことばの教育」を視点とした授業改善に取り組み、各教科等において記録、要約、説明、論述といった言語活動を充実させた授業を行います。
- 各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間、特別活動等において学校図書館を計画的に活用し、児童生徒の主体的な読書活動や学習活動を充実させます。
- 児童生徒の発達の段階に応じて、読書への意欲を喚起し読む力を育てるために、国語科の年間指導計画において読書指導を位置づけ、その指導の充実を図るとともに、他教科においても必要に応じて適切に読書指導を行います。

## 8 本を読んで自分の生き方を考え表現する機会の提供

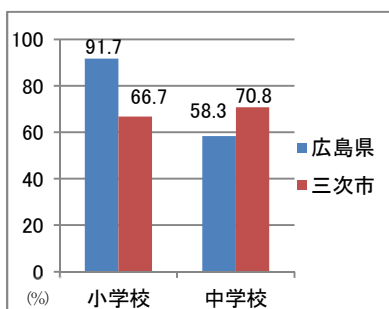
子どもが本を読んで感動したことを表現したり、本から学んだことを交流したりすることは、自分の考えを深める一つのきっかけになります。そのためには、学校や地域などにおいて、読書と自分の生き方を関連付けて考えさせる機会の充実を図ることが必要です。また、新聞を活用し、考えをもたせることも効果的な指導といえます。

学校においては、読書感想文コンクールに応募する、読書会等を開く、本の紹介をし合う等の取組により、子どもたちが読書を通じて様々なものの見方や考え方に触れるとともに、生き方を考え、表現する機会を意図的に設定していくことが大切です。

**目標 ①** 読書感想文コンクール等へ応募する小・中学校は、100%にします。

現 状

### 読書感想文コンクール等へ応募する学校



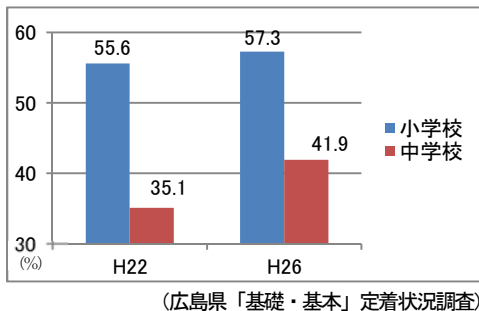
各種作品コンクールへの応募は、各学校の積極的な取組により、100%の学校が毎年多くの作品に応募しています。

しかし、広島県「ことばの輝き優秀作品コンクール」や三次市「みよしことばフェスタ作品コンクール」「本のメッセージカードコンクール」など、「本を読んで考え、表現する力」部門や本の紹介への応募はグラフのようになっており、今後は読書感想文や本の紹介文を書く等の取組をさらにすすめていく必要があります。

**目標 ②** 「読んだ本の内容について友達や家族と話す児童生徒」の割合を小学校は、70%以上、中学校は、60%以上にします。

現 状

### 読んだ本の内容について友達や家族と話す児童生徒の割合



「読んだ本の内容について友達や家族と話す児童生徒」の割合は、5年前と比較し小学校で1.7ポイント、中学校では6.8ポイント向上しています。さらに、学校でも家庭でも、本の内容が話題となるような取組を進める必要があります。

この本のここが おもしろかったよ。

今度は、こんな本が読みたいな！



方 策

- 広島県教育委員会主催の「ことばの輝き」優秀作品コンクールや、三次市が開催している「みよしことばフェスタ作品コンクール」で読書感想文の部門への応募を積極的にすすめ、子どもたちの表現の機会を充実させます。
- 三次市立図書館が主催する「本のメッセージカード」の応募において、各学校からの積極的な応募を呼びかけます。



## 9 読書活動推進リーダー(子ども司書等)の育成

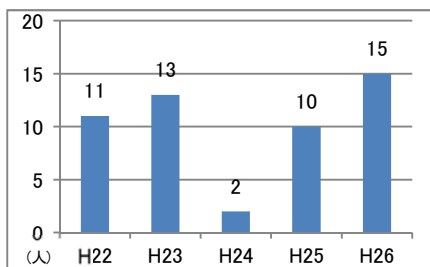
子どもは、大人から読書の楽しさを教わるだけでなく、子ども同士で本を紹介し合うことで読書の楽しさを味わいます。児童生徒の中に読書活動を推進するリーダーを育成し、育成したリーダーが学校や地域で読書の楽しさや大切さを広めていく取組が大切です。

平成22年度から始まった「子ども司書」養成講座などをきっかけに、全体研修や市立図書館での実地研修、学校での実習、ポップの作成等を行い、地域や学校のリーダーが育っています。

### 目標 ①

三次市「子ども司書」養成講座を継続して実施し、読書活動推進リーダーを育成します。

### 三次市「子ども司書」認定者の人数



「子ども司書」とは、子ども版の司書のことです。平成24年度を除き、毎年10名以上の子供たちが子ども司書の認定を受け、各学校での読書活動のリーダー的な役割を担って活動を続けています。

読書って楽しいよ!



### 子ども司書の活動の様子

#### 現状

7月下旬の全体研修、図書館での3回の実地研修、各学校や地域図書館での秋の活動を通して、本の正しい分類の仕方や楽しい本の紹介の仕方など、読書の大切さや楽しさを体験的に学んでいきます。



「本の紹介コーナー」を作る活動



学校での本の読み語り活動



おすすめコーナーに飾ったポスター

#### 方策

- 三次市「子ども司書」養成講座を継続して実施するとともに、活動内容を充実させ、地域や学校における読書活動推進のリーダーを育てます。

# 10 学校図書館の読書センターとしての整備

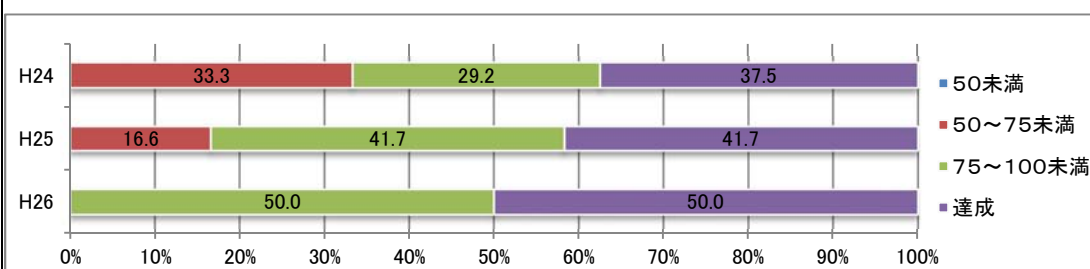
学校図書館は、児童生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心等と呼び起こし、豊かな心を育む自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能をもっています。このことから、子どもたちの様々な興味・関心に応えるような図書資料の整備を積極的に進める必要があります。

## 目標 ①

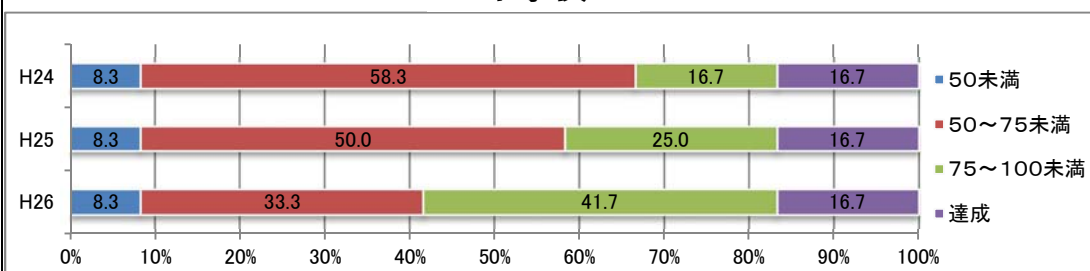
「学校図書館図書標準」【\*5】に達成する小学校80%、中学校60%をめざします。

### 学校図書館図書標準の達成状況

#### 小学校



#### 中学校



(「学校図書館の現状に関する調査」)

## 現状

学校図書館図書標準の達成状況を見ると、小学校では75%未満の学校はなくなり、図書標準達成に向けて整備が進んでいます。中学校においても75~100%未満の学校が、41.7%と増えてきており、図書標準達成に向けて計画的な整備が進んできています。



## 方策

- 児童生徒に必要な図書を整備する上で、国が学級数に応じて定めている蔵書冊数（学校図書館図書標準）の達成をめざします。
- データベースを有効に活用し、児童生徒にできるだけ早く新刊図書を提供します。

## 11 学校図書館の学習・情報センターとしての整備

学校図書館は、学校内において、読書、学習、情報収集などにかかわる「学習・情報センター」としての機能をもっています。このため、子どもたちの主体的な学習態度を育成する上で、資料を活用した学習活動の場としての学校図書館の役割が、一層重要になってきます。

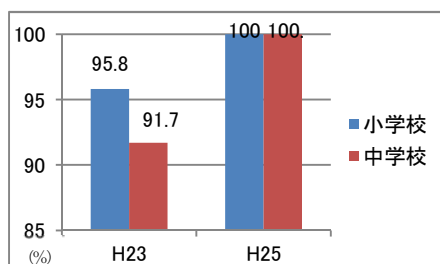
学校図書館において、課題解決的な学習、探究的な学習など子どもたちの主体的な学習活動が展開できるよう、担任、司書教諭等の学校図書館担当職員が連携して、学校図書館を「学習・情報センター」として整備していくことが必要です。

### 目標 ①

事典・辞書等を配備している学校を100%継続し、学習・情報センターとしての整備をさらにすすめます。

### 現状

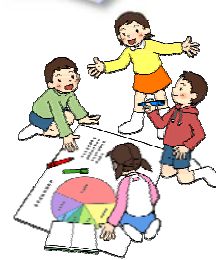
#### 百科事典や図鑑等の配備状況



(「学校図書館の現状に関する調査」)

百科事典や図鑑については、小・中学校ともに100%の配備がされています。今後も、事典や図鑑等、様々な図書資料を活用した学習活動の充実が求められます。

調べるって楽しいね!



### 方策

- 読書活動年間指導計画等への位置づけを明確にし、事典や図鑑等を活用した調べ学習の必要性を周知します。

## 12 三次市立図書館の蔵書等図書資料の整備・充実

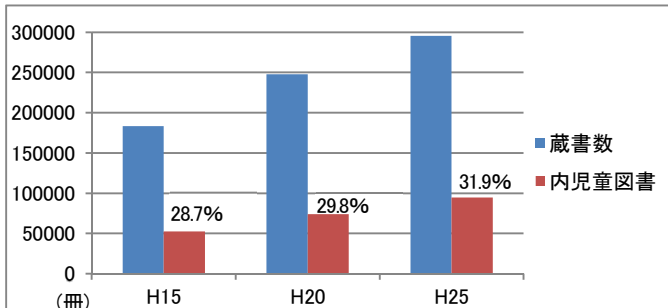
子どもの読書活動を推進する環境を整備するため、三次市立図書館の図書館資料の整備・充実を図るとともに、三次市立図書館と学校図書館が相互の協力・連携を進めることも重要です。

### 目標 ①

三次市立図書館における児童・青少年用図書の一層の整備・充実をめざします。

### 現状

#### 図書館における児童を対象とした図書資料の割合



三次市内の8つの図書館で見ると、いくらかの差はありますが、三次市立図書館全館で見ると、児童・青少年用図書の割合は、過去5年間約30%を超えています。

### 方策

- 今後も三次市立図書館全館で、児童・青少年用図書の一層の整備・充実を行うよう、指定管理者等に働きかけます。
- ころぶっくる号(移動図書館車)の利用や「朝読便」の配達等、学校と三次市立図書館との協力・連携をさらに進めます。

## 13 司書教諭等の養成及び研修等の充実

司書教諭は、学校図書館資料の選択・収集・提供や学校図書館を活用した教育活動の企画の実施、教育課程の編成に関する他教員への助言等、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担っています。

また、学校図書館を活性化するためには、司書教諭が、学校図書館担当職員や読書活動ボランティアと連携しながら学校図書館のサービスの改善・充実を図ることも効果的です。

**目標 ①** 司書教諭や学校図書館担当者等の研修を充実させます。

**現状**

- 本市において、平成26年度に司書教諭が位置づけられている学校は、学校図書館法第5条及び附則第2項の規定により、小学校3校、中学校1校です。12学級以上の学校すべてに司書教諭を配置しています。さらに11学級以下でも司書教諭の資格所有者は、小学校は対象24校中18校（75%）に、中学校では、12校中12校（100%）の学校に位置付けています。

**方策**

- 司書教諭の資格を所有している教員の在籍する学校においては、司書教諭を命課し、校内における読書活動の推進をさらにすすめます。
- 司書教諭や学校図書館を担当する教員の知識・技術等の向上を目的として、図書館教育に関する各種研修会への参加の奨励や三次市教育研究会図書館教育部会等の研修の充実を図っていきます。

## 14 三次市立図書館における司書の配置及び 研修等の充実

司書は、図書館における専門的職員として、児童・青少年用図書を含む図書館資料に関する広範な知識や、子どもの発達の段階に応じた図書の選択に関する知識、子どもの読書指導に関する知識・技術等を身に付け、子どもや保護者に対して、図書に関する案内や助言を行うとともに、子どもの読書活動に関する相談等に応じる重要な役割があります。

**目標 ①** 三次市立図書館（全館）における司書の配置、100%をめざします。

**現状**

### 三次市立図書館における司書の配置状況

	職員数（人）	司書有資格者（人）
中央館	10	8
君田館	1	0
布野館	1	0
作木館	1	0
吉舎館	1	1
三良坂館	1	0
三和館	1	1
甲奴館	1	1
計	17	11

平成26年度末、三次市立図書館における司書の割合は、50%（8館のうち4館に配置）です。市内の全図書館に司書を配置することは達成されていません。

**方策**

- 今後、全館での司書配置となるよう、指定管理者等に働きかけます。





## (解 説)

### \* 1 三次市立図書館

本計画において「三次市立図書館」とは、三次市立図書館（中央館）及び三次市立君田図書館、三次市立布野図書館、三次市立作木図書館、三次市立吉舎図書館、三次市立三良坂図書館、三次市立三和図書館、三次市立甲奴図書館の7分館の合計8館をさしています。（以下「三次市立図書館」）なお、平成22年6月より、指定管理者制度を導入し、三次市立図書館の管理・運営は、(株)暮らしサポートみよしに委託しています。



### \* 2 子ども読書の日

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

【子どもの読書活動の推進に関する法律（抜粋）】



### \* 3 古典の日

第三条 国民の間に広く古典についての関心と理解を深めるようにするため、古典の日を設ける。

2 古典の日は、十一月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、古典の日には、その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めるものとする。

4 国及び地方公共団体は、前項に規定するもののほか、家庭、学校、職場、地域その他の様々な場において、国民が古典に親しむことができるよう、古典に関する学習及び古典を活用した教育の機会の整備、古典に関する調査研究の推進及びその成果の普及その他の必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

【古典の日に関する法律】



### \* 4 青少年サービス

おおむね12歳から18歳までの青年期利用者に対して、主として公共図書館が行うサービス。

読書離れが問題となる中学生・高校生を対象に、「心の悩み」「学校・友人関係」「受験・進路」「性について」といった青年期世代の誰もが直面する問題等について、参考となる図書を選定・紹介するサービスのこと。



### \* 5 学校図書館図書標準

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、文部科学省が平成5年3月に定めたものです。

小学校	
学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3~6	3,000 + 520 × (学級数 - 2)
7~12	5,080 + 480 × (学級数 - 6)
13~18	7,960 + 400 × (学級数 - 12)
19~30	10,360 + 200 × (学級数 - 18)
31~	12,760 + 120 × (学級数 - 30)

中学校	
学級数	蔵書冊数
1~2	4,800
3~6	4,800 + 640 × (学級数 - 2)
7~12	7,360 + 560 × (学級数 - 6)
13~18	10,720 + 480 × (学級数 - 12)
19~30	13,600 + 320 × (学級数 - 18)
31~	17,440 + 160 × (学級数 - 30)





## 三次市子どもの読書活動推進計画(第二次) スケジュール

目標	方 策 内 容	H27	H28	H29	H30	H31
1	① 保護者が読み聞かせについて、学べる参加・体験型プログラムの内容の充実をめざします。	→				
	② 三次市立図書館において、より利用しやすい乳幼児向け図書コーナーをめざします。	→				
2	① 小・中学校における推薦図書や必読書リストの作成率を100%にします。	80%	85%	90%	95%	100%
	② 三次市立図書館における推薦図書の紹介100%を継続します。	→				
3	① 「子ども読書の日」、「古典の日」における活動の取組を小・中学校では継続して実施し、各学校の特色を生かした内容の充実をめざします。	→				
4	① 広島県が企画するボランティアのスキルアップ・交流の場へ、三次市からの参加を継続します。	→				
5	① 全校一斉読書活動を全ての小・中学校で実施し、週2回以上実施する学校の割合を100%にします。	小95%	95%	100%	100%	100%
	② 1か月に1冊以上本を読む児童生徒の割合を小学校は95%以上、中学校は85%以上にします。	小92%	93%	94%	95%	95%
6	① 三次市立図書館における子ども一人当たりの児童図書貸出冊数を20冊以上継続します。	→				
	② 三次市立図書館における青少年サービスを100%にします。	63%	75%	88%	100%	100%
7	① 目的に応じて本を読む児童生徒を育成するために、各教科等の学習において、学校図書館を学期に1回以上活用する小・中学校を100%にします。	88%	91%	94%	97%	100%
	② 「様々な本や資料を基に自分の考えをもたせる指導をしている学校」の割合を小・中学校は100%にします。	91%	94%	97%	100%	100%
	③ 「家で本や資料などを利用して学習している児童生徒」の割合を小学校は65%以上、中学校は55%以上にします。	小62%	63%	64%	64%	65%
	④ 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのを難しいとしない児童生徒の割合を10%アップします。	小34%	36%	38%	40%	42%
8	① 読書感想文コンクール等へ応募する小・中学校は、100%にします。	76%	82%	88%	94%	100%
	② 「読んだ本の内容について友達や家族と話す児童生徒」の割合を小学校は、70%以上、中学校は、60%以上にします。	小58%	60%	63%	66%	70%
9	① 三次市「子ども書」養成講座を継続して実施し、読書活動推進リーダーを育成します。	→				
	② 「学校図書館図書標準」に達成する小学校80%、中学校60%をめざします。	小50%	60%	70%	75%	80%
10	① 事典・辞書等を配備している学校を100%継続し、学習・情報センターとしての整備をさらにすすめます。	中20%	30%	40%	50%	60%
	② 三次市立図書館における児童・青少年用図書の一層の整備・充実をめざします。	→				
11	① 司書教諭や学校図書館担当者等の研修を充実させます。	→				
12	① 三次市立図書館(全館)における司書の配置、100%をめざします。	→				
13	① 三次市立図書館(全館)における司書の配置、100%をめざします。	50%	63%	75%	88%	100%

継続して目標達成に取り組む

計画的に目標達成に取り組む